

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録  
(平成30年10月3日(水) 16:36~16:43 於) 福島県庁)

1. 発言要旨

本日、内堀知事へ復興大臣就任の御挨拶にお伺いをし、意見交換をしたところでございます。

知事からは、皆さん方も既にいらっしゃるところの3つの話をお伺いをしたところでありまして、私の方から、皆さん方が退席した後の話をさせていただきたいというふうに思っております。

私から申し上げたのは、復興大臣としての姿勢をまず知事にお話をさせていただきました。私は、福島を第一に選びました。それは、現場主義、これを徹底していく私の思いであります。そして、さらには、被災者に寄り添っていく、こういったことを知事に申しました。こういった状況の中で、復興を全力で取り組んでいく、こういったお話を知事とさせていただきました。

さらに、この福島の問題については、2020年を見据えた上で、改めて福島がすごいところであるということを示せないかという話の中で、私がかつて自民党の中の水素社会の推進委員長をしておりましたので、この浪江で既にそういった動きがありますが、水素の供給基地として福島が存在する、そしてその水素を是非ともオリ・パラに使っていききたいという話をさせていただいたところ、当然、知事も是非ともお互いに協力し合ってやっていきたいと思いますということでありました。

新しい福島、こういったことを想定しながら、私たちはこれからの福島を、皆さん方が誇りを持って生活できる環境をつくれるような復興を目指してまいりたい、そのように思っております。

私の方からは以上であります。

2. 質疑応答

(問) 今のお話にあったオリ・パラで水素を使いたいというのは、それはどういうことを想定してお話なんでしょうか。

(答) 水素というのは、まずCO<sub>2</sub>フリーであるという、完全CO<sub>2</sub>フリーの水素を供給していくということが、浪江の方で今、実証して作っている段階なんです。それをオリンピックの段階で何かに活用できないか、いろんなことが活用できるというふうに思いますが、一つは、まだまだこれは具体的にできるかどうか、はっきり申し上げられませんが、オリンピックの会場の中で水素をどのような形で使えるか、こういったことも想定しているわけでありまして。

さらには、選手村で水素で何かができないか、そしてさらには、様々な交通機関として水素が活用できないか、こういったことが頭にあるわけでありましてけれども、今の段階では具体的にはちょっと申し上げることができません。

ただ、水素の活用については、これからの世界の潮流として環境の世紀、環境に対して、このオリ・パラがすばらしいオリ・パラであること、その世界に発信できるためにはそういった取組が必要ではないかな、そのように思っております。

これをより具体的にこれから検討していかなければなりません、そもそもこの水素の関係については、党での私の役目でありました。今回それをどういう形で、この復興庁の中でこの福島の関係に使えるかどうかというものは、大臣としての具体的な考え方としてはまだまとまっておりません。

でも、知事が大変関心を持っていただいたということは事実でありますので、これはお互いに協力し合っていきたいというふうに思っています。

(問) まず知事にお会いして、どういう印象を持たれたかというようなことをお伺いしたいというのが一点。

もう一点、大臣は厚生労働委員長を務められて社会保障政策にも精通されていると思えますが、その上で現在、浜通りでは、例えば介護保険の保険料の減免とかという、いろいろな医療介護についての支援策というのがあります。これについての必要性、または復興・創生期間後も継続していくべきかどうかというところで、どのようなお考えをお持ちなのかをお聞かせください。

(答) 私は厚生労働委員長を2年間やってまいりました。私たちは、やはり生活している上で、安全で安心して生活できる環境をつくっていかなければならないということは大変重要な課題であります。

今の問題について、具体的には今の段階でどうのこうのという形でちょっとお話は申し上げることはできませんけれども、いずれにしても、安心できる社会をつくっていく、その方向性だけは間違いありませんので、そういったことで私は取り組んでまいりたいというふうに思っています。

そして、知事の印象でございますが、大変すばらしい知事だと思っております。大変話が合って、時間を超えてしまったという状況であります。

(問) 知事からの要請の中で、復興・創生期間後のポスト復興庁でありますとか、財源確保のあり方について要請がございましたが、大臣は今の段階で復興・創生期間後のあり方についてのお考えをお聞かせください。

(答) まずは、今の復興の進捗状況、これをまずしっかりと把握していかなければなりません。さらに、そのために今日は来たわけがありますが、それぞれの自治体の長、そしてまた当然、知事とのお話の中で、より具体的な形でお話を伺っていかなければなりません。今日はその第一歩だというふうに思っております。

したがって、ポスト復興庁の問題については、今、様々な視点から検討しているという状況であります。

(問) オリ・パラの話が出たのはあれですけれども、前任の吉野大臣は、東京五輪の聖火のリレーで、双葉の駅を組み入れたいという話をされて、その中で、リレーを通して双葉の復興と一緒にやっていきたいという話をしていましたけれども、この点について大臣のお考えはどうでしょうか。

(答) 基本的には、決定するのは一体どこなのかというふうに考えますと、その決定権は県ではないかなというふうに思います。したがって、県との調整が必要になってくるのではないかなというふうに思います。

(以 上)